

単元案の概要

単元名：日本語で小説を読む					
	日本語IV	作成日	2016年8月16日	作成者	森川結花
学年／年次		クラス人数	10人前後	使用教材	吉本ばなな「ムーンライトシャドウ」
話題分野	自分と身近な人々、学校生活、日常生活、食、衣、からだ、趣味、買い物、人とのつきあい、行事、地域社会、自然、ことば	言語レベル	レベル3～4	必要時間数	30時間（3週間）
単元目標					
(1)日本語で一編の小説を読み通すことができる(初めての経験) (2)小説を読むことで、作者についての情報、小説の舞台となっている日本の時代背景、日本の伝統的な習慣や衣食住などの文化的な情報、宗教観(死生観)などの知識を得て、同様の知識を持った他者と知的な会話ができる。 (3)読書会に向けての準備を通して、日本的社交スキルを使って教室外の社会とつながることができる。 (4)学習の総括として、文学論的小論文かスピノフ小説を書くことができる。					
コミュニケーション能力指標					
自4-a.登場人物の生い立ちや思い出について、文章にまとめ書くことができる 自4-b.ライフストーリーや手記を読んで概要を理解できる 自4-c.家族について書かれた文章を読んで、家族のあり方について意見交換ができる 自4-d.友達つきあいについて書かれた文章を読んで、自分の国のやり方と比較することができる 学4-c.日本の学校(学生)生活の特徴や教育制度についての説明を聞いたり読んだりして、日本と比較しながら意見交換できる 日4-a.困っていること、悩んでいること、不満に思っていることなどを打ち明けたり聞いてあげたりする文章を読むことができる 日4-b.日常生活で起きたハプニングやハプニングや失敗談についての文章を読み、自分の似たような経験を披露することができる 日4-c.いろいろな人のライフスタイルについての文章を読んで、そこから感じたことを話し合うことができる 食4-b.現代の日本の若者の食生活について読み、それについて自分の国との比較をし、話し合うことができる 衣4-a.服装のTPOについて、ある程度まとまった文章を読んだり話したりできる 衣4-b.自分のファッションに対するこだわりについて話し合うことができる 衣4-d.さまざまな制服について調べ、その機能や意味について意見交換できる か4-a.健康や保健に関する文章を読んで、発見したことや自分の考えを話すことができる か4-c.日本と自分の国の伝統的な健康維持法や病気の治療法について調べ、それぞれの特徴について話し合うことができる か4-d.からだの部位を使った日本語の表現と自分の母語の表現を比較し、それぞれの考え方について話し合うことができる 趣4-a.映画や小説のあらすじや、イベントの見どころを、口頭で説明できる 趣4-c.日本と自分の国の余暇の過ごし方について読んだり考えたりし、話し合うことができる 人4-a.日本の通信手段として、まだ携帯電話やインターネットがなかった時代の状況について書かれた文章を読み、現代との相違点や類似点について話し合うことができる。 人4-c.日本社会の人間関係の中で日本人が大事にしていることについて考えたり、自分の国と比較したり、それについて話し合ったりすることができる 人4-d.日本の贈答習慣について文章の中から読み取ったり調べたりして、その特徴について話し合ったり文章にまとめたりすることができる 行4-a.日本の行事(特に人の死に関する行事)について調べ、自分の国のそれと比較して相違点・類似点をまとめ、それについての自分の考えを述べたり文章に書いたりすることができる 環4-d.自然環境や四季の様子についての文章を読み、その特徴を理解し、自分の国のそれと比較することができる こ4-a.辞書にのっていないことば(新語や俗語など)についてインターネットで調べ、意味を理解できる こ4-b.日本語の特徴と母語とを比較して、口頭または文章で説明することができる こ4-c.日本語と母語とを比較し、表現は似ているが意味が違う、または表現は違いますが意味は似ていることばについて、口頭で説明することができる こ4-d.日本で話されている言語(方言、若者ことば、俗なことば)について調べ、その内容をレポートにまとめたり口頭で発表したりすることができる こ4-i.時代によってことばが変化していくこと(現代の若者ことば、メールに使われる話し言葉と書き言葉の中間言語など)について意見交換できる					
学習活動の流れ					
語彙・表現習得活動			学習シナリオ		
<場面状況> 年間プログラムの留学生。非漢字文化圏欧米系学生が中心で10人前後のクラスサイズ。中級教科書(例:『J501』)を学び終え、日本語能力はクラス標準でN3～N2の手前辺りまで来ていると期待される。教科書の本文で小説、エッセイ、論説文を読んできたが、まだ本物の日本語の「本」一冊、または小説を作品の最初から最後まで通して読んだことはない。従って、この学習活動が学生達にとって「初めての日本語小説読了体験」となる。小説を「読み」、小説について他者と「語り」、そして小説について自分の作品を「書く」ことを目指す。					
<活動の流れ> (1)授業を始める一週間前に教材を配布し、自分なりに通読してくるよう指示する。教材は原著と英語訳、副教材冊子(自分で作る単語リスト、文型・表現ノート、文型練習問題など)である。自分で予習として読む時には英語版を必要に応じて「ナビ」として使ってもいいことにする。とにかく通読して全体のストーリーを把握してきてもらう。 (2)第1回目の授業では、①作者の吉本ばななについて、②作品の舞台となった「昭和」という時代、③「東京」という地域の特徴についてインターネットを使ったり、日本人にインタビューをしたりなどして調べてきた結果を発表する。 (3)作品を12章にわけ、第2回目から第13回目の授業まで、一日につき一章ずつ授業で読み進めていく。授業の手順は、①該当箇所の音読クイズ、②文脈理解のチェック、③各章のポイントについての話し合い(グループディスカッションと発表)、④まとめ、⑤文型・表現・語句についての知識と練習である。 (4)第5回目の授業日に、読書会についてはゲストスピーカーへの招待状メールの書き方を学習し、手分けして出させておく。 (5)12日間かけて読み終えた後、14日めは各自のレポートないしスピノフ小説の構想についての発表と、読書会の準備(読書会での役割分担決めや司会進行役、質問などの言い方の練習)をする。 (6)15日目はゲストスピーカーを招いての読書会をし、この学習の最終授業とする。 (7)レポート／創作はその後2週間の猶予を与えて提出させる。					
形成的評価			総括的評価		
・音読クイズ ・表現・語句の宿題の出来映え ・授業のParticipation ・日々の授業後の感想と自己評価 ・読書会後の感想			レポート(文学論またはスピノフ小説の創作)		